



114期 株主通信

# TDK TODAY

VOL.44 2009/WINTER



# TDK TODAY

VOL.44 2009/WINTER

## CONTENTS もくじ

株主の皆様へ	2	TDK-EPC(株)について	11
製品別業績概要	5	広報印刷物紹介	14
連結データハイライト	7	だから、やっぱりTDK	15
TOPICS	8	名句の旅&TDK	17
CEATEC2009特集	9	株式の状況 他	18

### 表紙：

現在でも活動を続ける活火山でもある浅間山の冬景色。標高 2,568 mの冬の浅間山は、雪を頂いた雄大で美しい姿で眺める者の目を楽しませてくれます。

### 【将来に関する記述についての注意事項】

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといたします。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。



代表取締役会長 澤部 肇

代表取締役社長 上釜 健宏

—独自の素材・プロセス技術で、お客様のニーズに応えるプロ集団を目指して—  
「中期計画116」を始動!

### 基本方針

- I. 市場ニーズに応え、特長ある電子素材・部品を提供し、地球と人のくらしを豊かにする
- II. 素材・プロセス技術を追求め、コストと品質を極める
- III. 選択と集中を徹底し、トータルコストの低減により強い収益構造を実現する
- IV. 生き生きと社員が働くプロ集団を実現する

## □新中期計画が目指すもの

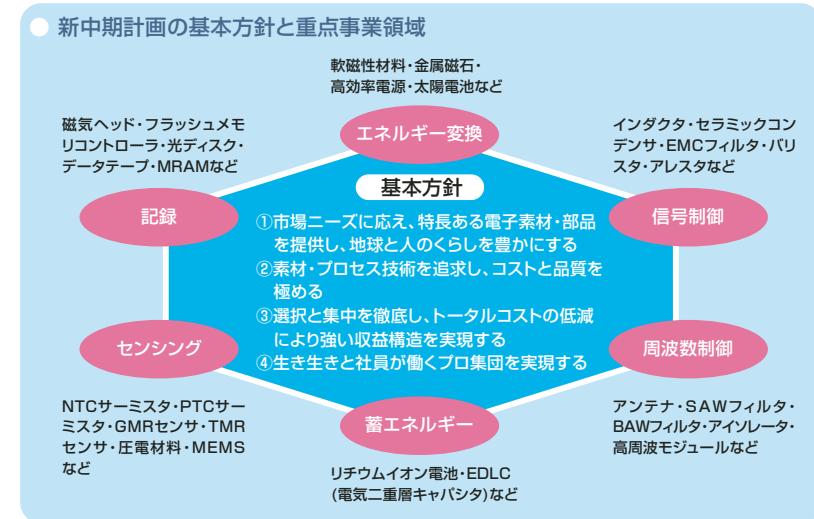
### 競争力の高い技術の選択と集中により、強い収益構造を実現

激変する事業環境に対応しつつ、さらなる成長を遂げるために、企業には臨機応変な対応と得意分野(コア・コンピタンス)の深耕が求められます。事業環境の変化に伴いこれまで進めてきた中期計画を見直し、2009年4月から3年を期間とする新たな中期計画を策定しました。

その概略は次の通りです。

TDKはフェライトやマグネットに代表される磁性材料を核とする素材技術をベースとして、インダクタ・コンデンサ・EMC(ノイズ)フィルタ・トランス・電源など、電子機器の中核となる電子素材・電子部品を提供している世界有数のメーカーです。蓄積した技術の展開により、磁気テープ・光ディスク・HDD用ヘッドをはじめとする多種多様な応用製品を生み出し、TDKは事業を拡大してきました。新中期計画におきましては、中核事業である電子素材・電子部品事業の基盤の上に、HDD用ヘッドやリチウムイオン電池などの発展型事業を展開するという従来方針を堅持しつつ、市場ニーズを見据えた4つの基本方針を掲げました(図参照)。また、今後も成長が見込める6つの事業領域を設定し、当社の技術・製品の選択と集中を図りつつ事業を展開してまいります。

この中で当社が取り組むべき最重要課題としているのは、環境と人の暮らしへの貢献です。



さらに、ディスクリットトラックメディアや熱アシストヘッドによるHDDのさらなる記録密度の向上など、次世代技術の開発に対応するとともに、買収したEPCOSの蓄積技術を生かした高周波部品・モジュール・センサ・MEMSといった事業分野の拡大にも努めてまいります。安定した成長が見込まれる電子素材・電子部品で継続的に利益を出し、EPCOS買収のシナジー効果を早期に実現し、その他の主要事業の利益体質を強化する—これがTDKの新たなビジネスモデルであり、新中期計画の目標です。

## □2010年3月期上期連結業績について

2009年9月30日に終了しました2010年3月期上期の連結業績についてご報告いたします。

当上期において、TDKの連結業績に影響を与えるエレクトロニクス市場には次のような動向がありました。

- 2008年秋に顕在化した世界同時不況により主要セット製品(最終財)の需要が縮小したため、生産数は急減しましたが、徐々にセット製品の生産数は回復の兆しを見せ始めています。
- 回復の度合いはセット製品毎に異なり、ノート型パーソナルコンピュータ(PC)及び薄型テレビのように生産数が見事に世界同時不況前の水準を上回るものもありますが、全体の生産数は前年同期の水準には至っておりません。
- このような状況下、当社の電子部品需要もセット製品同様に回復傾向にありますが、前年同期の水準には至っておりません。

このような事業環境の中、当社の連結業績は売上高3,858億51百万円(前年同期3,965億37百万円、前年同期比2.7%減)、営業利益54億2百万円(前年同期143億81百万円、前年同期比62.4%減)、税引前四半期純利益9億53百万円(前年同期148億26百万円、前年同期比93.6%減)、当社株主に帰属する四半期純利益11億40百万円(前年同期118億68百万円、前年同期比90.4%減)、1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益金額8円84銭(前年同期92円2銭)となりました。

また、当上期において主に米ドル、ユーロが前年同期比で円高となったため、売上高で約305億円、営業利益で約87億円それぞれ減少の影響がありました。

(単位:百万円、%)

科目	期	前上期 (2008.4.1~2008.9.30)		当上期 (2009.4.1~2009.9.30)		増減	
		金額	売上高比	金額	売上高比	金額	増減率
売上高		396,537	100.0	385,851	100.0	△ 10,686	△ 2.7
営業利益		14,381	3.6	5,402	1.4	△ 8,979	△ 62.4
税引前四半期純利益		14,826	3.7	953	0.2	△ 13,873	△ 93.6
当社株主に帰属する四半期純利益		11,868	3.0	1,140	0.3	△ 10,728	△ 90.4
1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益金額:							
—基本			92円02銭		8円84銭		
—希薄化後			91円97銭		8円83銭		

(注)当社株主に帰属する四半期純利益は、米国会計基準に基づく表示の変更であり、従来の四半期純利益と同じ内容です。

## 製品別業績概要

当社の売上高は(1)電子材料 (2)電子デバイス (3)記録デバイス (4)その他 の4つの製品区分で構成されます。なお、前期第3四半期から連結対象となったEPCOS製品のセグメント定義が当社の定義と必ずしも一致していないため、EPCOS AGとその子会社の売上高を「その他」に含めております。また、2007年8月にTDKブランド記録メディア販売事業を譲渡したことにより、重要性の判断から記録メディア製品の売上高を「その他」に含めております。

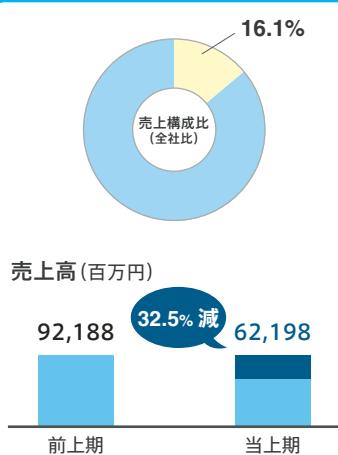
### ▶ 電子材料

### Electronic materials

電子材料は「コンデンサ」、「フェライトコア及びマグネット」の2つで構成されます。当製品区分の売上高は、621億98百万円(前年同期921億88百万円、前年同期比32.5%減)となりました。

「コンデンサ」:売上高は前年同期比で減少しました。主要品目である積層セラミックチップコンデンサは主要市場(パーソナルコンピュータ(PC)、音響・映像機器、ゲーム機、携帯電話、自動車)向けに減少しました。需要減、売価下落及び米ドルに対する円高の影響を受けたことが減収の要因です。

「フェライトコア及びマグネット」:売上高は前年同期比で減少しました。フェライトコアとマグネットは各々の主要市場である電源、自動車、ハードディスクドライブ(HDD)向けに減少しました。



### ▶ 電子デバイス

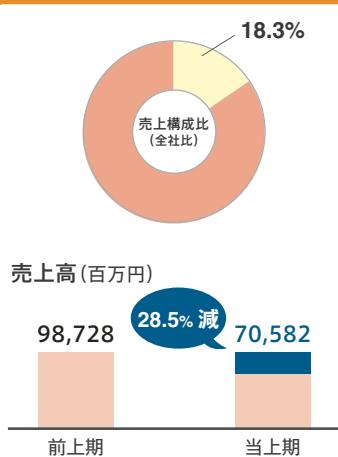
### Electronic devices

電子デバイスは「インダクティブ・デバイス」、「高周波部品」及び「その他」の3つで構成されます。当製品区分の売上高は、705億82百万円(前年同期987億28百万円、前年同期比28.5%減)となりました。

「インダクティブ・デバイス」:売上高は前年同期比で減少しました。主要品目であるコイル製品・EMC製品・トランス製品は各々の主要市場である音響・映像機器、ゲーム機、携帯電話、自動車向けに減少しました。

「高周波部品」:売上高は前年同期比で減少しました。主たる減収要因は一部製品の終息、PC向けの減少です。

「その他」:売上高は前年同期比で減少しました。電源の主たる減収要因は一部製品の終息、産業機器市場向けの減少です。また、センサ・アクチュエータも減少しました。



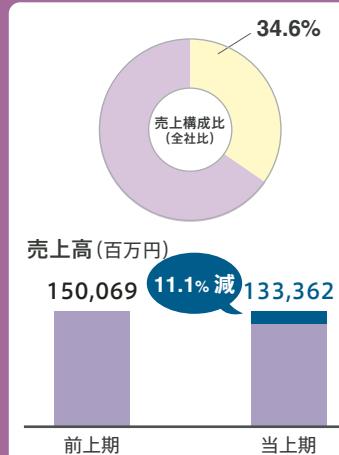
### ▶ 記録デバイス

### Recording devices

記録デバイスは「HDD用ヘッド」、「その他」の2つで構成されます。当製品区分の売上高は、1,333億62百万円(前年同期1,500億69百万円、前年同期比11.1%減)となりました。

「HDD用ヘッド」:売上高は前年同期比で減少しました。HDD用ヘッドの販売数量は前年同期比で増加しましたが、売価下落及び米ドルに対する円高の影響を受け減収となりました。

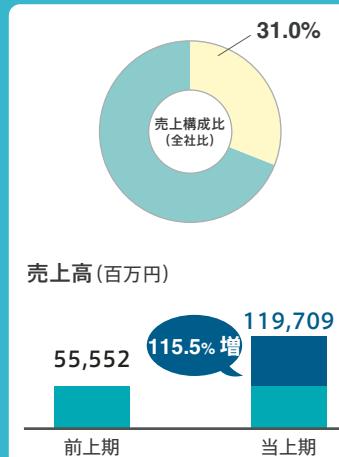
「その他」:売上高は前年同期比で減少しました。



### ▶ その他

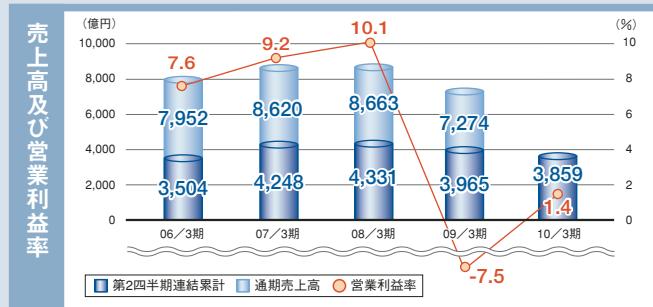
### Others

その他は、上記3製品区分を除くすべての製品から構成されます。当製品区分の売上高は、1,197億9百万円(前年同期555億52百万円、前年同期比115.5%増)となりました。増収要因は、EPCOS AGとその子会社の売上高801億51百万円が新たに連結対象となったことです。EPCOS製品を除く代表的な製品は<記録メディア>、<エナジーデバイス(二次電池)>です。記録メディア及びエナジーデバイスの売上高はそれぞれ減少しました。



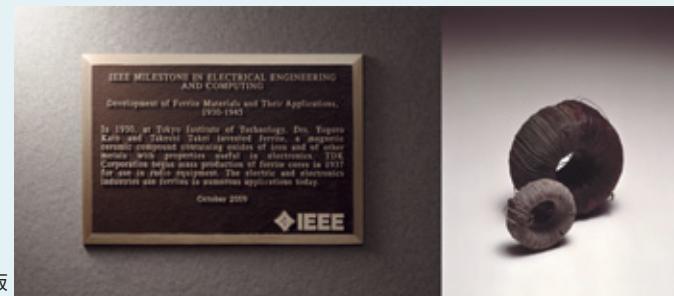
## ◆ 連結データハイライト

(表示単位未満は四捨五入して表示しております。)



# TOPICS

## 「フェライトの発明と工業化」が、栄えある「IEEEマイルストーン」に認定



「IEEEマイルストーン」銘板

世界初のフェライトコアを使用したコイル

電気・電子技術における世界最大の学会であるIEEE(電気・電子技術者協会)では、社会や産業の発展に大きく貢献した歴史的業績を「IEEEマイルストーン」として表彰しています。いわば電気・電子技術のノーベル賞ともいえる栄えあるIEEEマイルストーンに、このたび東京工業大学とTDKによる「フェライトの発明と工業化」が認定されました。

フェライトは酸化鉄を主成分とする粉末原料を成型し、陶磁器のように焼成して製造されるセラミックスの磁性体です。しかし20世紀初頭まで、磁性体といえば金属というのが常識でした。この常識を打ち破り、フェライトという未知の磁性体の世界を開拓したのは、東京工業大学の加藤与五郎博士と武井武博士です。両博士は亜鉛精錬の工法の効率化を研究する過程で、酸化鉄を主成分とする金属化合物に、強い磁性を示すものがあることに気づきました。こうして1930年、世界初のフェライトが発明され、それまで金属材料が使われていたトランスやコイルのコア(コイルを巻きつける磁心)に、フェライトを利用する道が開かれたのです。

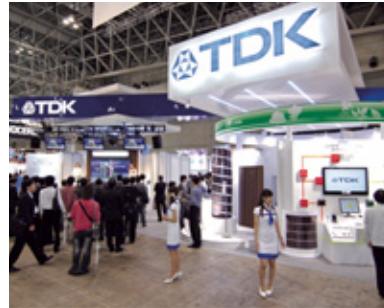
TDKは日本オリジナルの発明であるフェライトの事業化を目的に、1935年に設立されました。おりしも当時は高周波(高い周波数の交流電流)技術が発展期を迎えていた時代

です。たとえば電磁調理器やIHジャーでは、高周波によって金属鍋を加熱していますが、トランスやアンテナのコアでは、この発熱が大きな問題になります。フェライトは絶縁体に近いため発熱が少なく、高周波用コアとしてうってつけだったので。

TDKのフェライトコアのすぐれた特性は、すぐに第一線の技術者たちによって認められ、無線通信機やラジオのアンテナコアなどに採用され、戦前から終戦(1945年)までに、約500万個が出荷されました。終戦後もテレビのブラウン管やトランスのコア、テープレコーダやVTRの磁気ヘッドなど、フェライトの用途はますます拡大。近年はハイブリッドカーのバッテリー電圧変換器(DC-DCコンバータ)など、省エネ・省電力化にも大きく貢献しています。

フェライトはTDKの素材技術の原点であり、エレクトロニクスを根底から支える電子材料です。IEEEマイルストーン認定は、これまで世界で約80件。日本では電子式卓上計算機(シャープ(株))、VHS(日本ビクター(株))、日本語ワードプロセッサ((株)東芝)などに続く10番目の認定です。「フェライトの発明と工業化」が、電気・電子技術史に燦然と輝く業績として後世に伝えられることは、TDKの大きな喜びであり誇りです。

# CEATEC 2009 特集



ブース全体



ビジュアル映像を使ったプレゼンテーション

## 「先進のコア技術で環境と安心に貢献」をブーステーマに、注目のTDK製品を展示

電子部品・デバイス、半導体、ソフトウェア、次世代家電や産業機器など、最新のIT・エレクトロニクス関連製品が一堂に展示されるアジア最大級の国際見本市「CEATEC JAPAN 2009」が、10月6日～10日に幕張メッセで開催されました。出展企業・団体は590、期間中の中入場者数合計は約15万人にのびりました。

今年のTDKブースでは、「先進のコア技術で環境と安心に貢献」をテーマに、「特設ゾーン」と「製品展示ゾーン」を設け、TDKの素材技術、プロセス技術を生かした高効率・高信頼性・環境貢献度の高い製品を中心に展示。また、快適で安全な生活の実現に向けて技術革新を続けるTDKの積極的な取り組みについても、デモンストレーションなどにより詳しくご紹介いたしました。

省エネ・エコ志向が高まる中で、ひととき注目を集めたのは、写真の「ソーラータワー」。

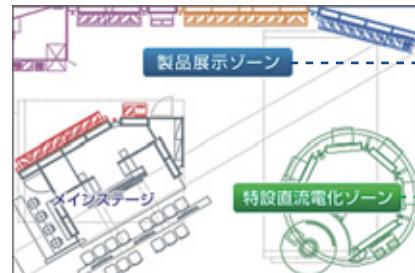


TDKのフィルムタイプのアモルファスシリコン太陽電池をオブジェにしつらえた発電タワーです。フレキシブルなうえ独自のロールtoロール工法により、長尺製品も一貫生産できるのが、TDKの太陽電池の特長です。

また今年は、米国のITジャーナリストがCEATECに展示された製品の中から、優れた技術、コンセプトを表彰する「米国メディアパネルイノベーションアワード」で、6つの部門賞のひとつである技術部品部門賞に、TDKの「色素増感型太陽電池セル」が選出されました。



授賞式の模様

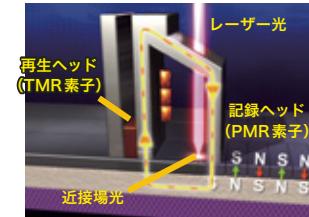


高記録密度ハードディスクドライブ用磁気ヘッド、薄型無線モジュール、薄膜高周波部品（カブラ、バラ）、GMR角度センサ、新たな製品ラインナップの代表製品としてSAWフィルタやアルミ電解コンデンサ、フィルムコンデンサなどを展示しました。

家庭内給電をモデルとした直流給電をデモンストレーションでわかりやすく紹介。また、太陽電池、パワーモジュール、二次電池などのエネルギー関連の製品と技術がいかに省エネルギーに貢献できるかを紹介しました。

TDKならではの最先端技術として、来場者の熱いまなざしを浴びていたのは、HDDの高記録密度化技術です。HDDの記録密度を高めていくと、メディアに磁気記録したデータが、熱の影響で消えてしまうおそれがあります。磁性層の保磁力を上げることによって、この問題を解決できますが、そうすると今度は磁気ヘッドの書き込み能力が不足してきます。そこで、レーザー光により磁性層を加熱して、一時的に保磁力を下げながら、磁気記録する新技術を取り入れたのが熱アシスト記録。TDKではレーザー照射機構と磁気ヘッドを一体化させた熱アシストヘッドを世界に先駆けて試作。実際の3.5インチディスクへの記録再生条件

において世界で初めて成功しました。

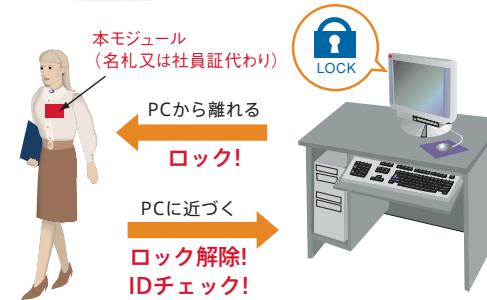


ディスクの磁性層をレーザーで加熱し、磁性層の保磁力を下げた状態で素早く書き込みを行う熱アシスト技術。

## CEATEC2009 TDKブース — 注目の新製品

### セキュリティ無線センサ

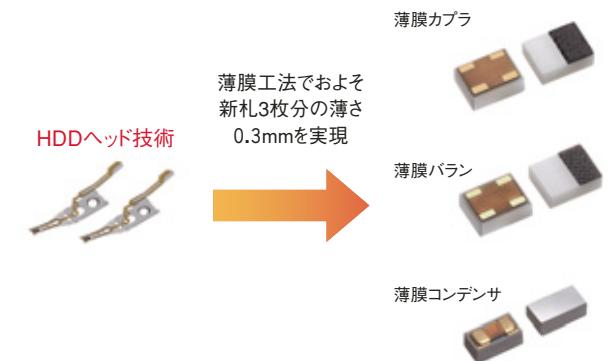
カードを身につけているだけでパソコンを自動ロック、自動解除



薄型無線モジュールを搭載したカード側と受信側（パソコンなど）からなる無線通信システムです。Suicaなどの非接触ICカードとちがい、無線信号を利用しているので、カードはリーダーにかざす必要もないのが特長。たとえばカードを身につけているだけでパソコンを自動ロック、近づくとIDチェックして自動解除といったセキュリティを簡便に実現します。

さらに薄型フレキシブル太陽電池による発電機能をもつため、3年間もバッテリー交換が不要。しかもわずか2mmの薄さを達成、スマートなネームプレートとして利用することができます。IDの自動認証による入退室管理、ロッカーの自動ロック・解除、POSレジの使用者管理や離れるときの自動ロックセキュリティなど、広範な応用が可能。オフィスや店舗、マンションなどにおける先進のセキュリティシステムとして期待が寄せられています。

### 低背型薄膜高周波部品



携帯電話をはじめとするモバイル機器の小型・薄型・高機能化はとどまるところを知りません。携帯電話の回路基板上に搭載されるチップ部品は、イチゴの種よりもさらに小さい0603形状（縦0.6×横0.3×高さ0.3mm）が主流になっています。回路基板の省スペース化を図るため、バラやカブラといった高周波部品も高さを0.3mmに抑えることが求められますが、従来の積層工法では低背化には限界がありました。そこで、TDKが採用したのが、HDDヘッドの製造で培った薄膜工法。半導体製造と似た高度なプロセス技術を用いて、基板にインダクタやコンデンサなどからなる複合素子を薄膜形成していく技術です。TDKは安定性にすぐれた誘電体膜の形成技術を確立。すでに市場提供している薄膜コンモードフィルタ、薄膜バンドパスフィルタに続き、CEATEC2009では薄膜バラ、薄膜カブラ、薄膜コンデンサの3製品を展示しました。

## □TDK-EPC株式会社が誕生

### 電子部品のグローバルリーディング企業を目指して

TDKグループの受動部品事業の強化を目指し、TDK株式会社の基幹事業である受動部品事業を分離・分割して設立されたTDK-EPC株式会社が、2009年10月1日に誕生しました。TDK-EPC株式会社は、TDK株式会社が100%出資する受動部品事業に特化した技術・製造・販売の会社で、ドイツの大手電子部品メーカーEPCOS AGとその子会社(以下EPCOS)を傘下に擁し、製品群も市場も従来に増して強い競争力を発揮できると確信しています。市場の変化とお客様のニーズに迅速かつ確に対応しながら、価値ある技術と製品、そしてソリューションを提供するTDK-EPC株式会社。TDKグループの成長を牽引していくとともに、世界に広がるネットワークを拡大し、電子部品のグローバルリーディング企業を目指してまいります。

### 多くの面で補完関係にある"良縁"

TDKは、デジタル家電や自動車分野向けの汎用部品に強みを持っています。一方のEPCOSは、自動車・産業機器・通信分野に強みを持っており、お客様の仕様に基づいたカスタム部品(特注部品)を得意としています。

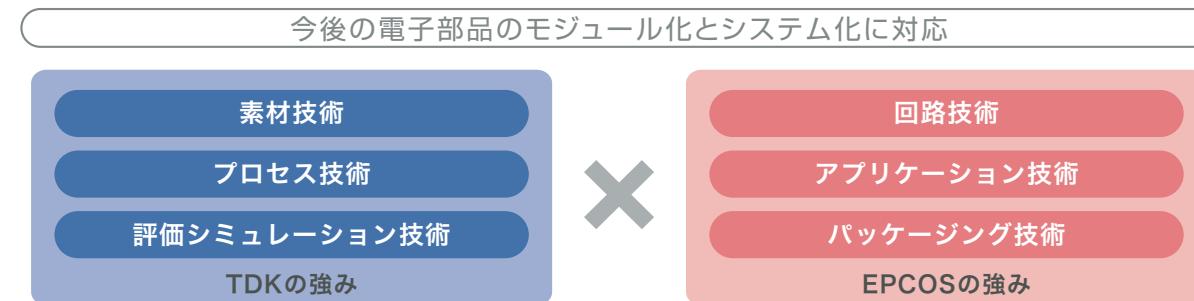
さらに技術や地域においてもTDKとEPCOSの得意な領域が異なります。事業を展開する地域を例に挙げると、TDKはアジア・日本・北米に強みを持つのに対し、EPCOSは欧州・南米・インドに強みを持つ、といった具合です。つまりTDKとEPCOSは互いに効果的な補完関係にあり、両社の強みを活かすことで大きな相乗効果が期待されます。この相乗効果を早期に実現すべく誕生したのがTDK-EPC株式会社です。

分野	TDK		EPCOS		
技術	素材/プロセス技術に強み		アプリケーション/モジュール技術に強み		
事業	セラミックコンデンサ/インダクタに強み		高周波部品/保護部品/センサに強み		
	コンデンサ*1	マグネティクス*2	センサ	高周波部品*3	ビエゾ及び保護部品*4 電解・フィルムコンデンサ
	<small>*1 中高耐圧コンデンサ、高温保証コンデンサ、低ESLコンデンサ等</small>		<small>*2 EMCフィルタ、トランス、フェライトコア、電波暗室等</small>		<small>*3 SAWフィルタ、デュプレクサ、モジュール等</small>
	<small>*4 アレスタ、ピエゾアクチュエータ、バリスタ等</small>				
市場・製品	汎用製品に強み		カスタム製品/特定用途向け製品に強み		
	家電製品	PC(IT)製品	通信機器/携帯電話	自動車	産業機器
地域	アジア・日本・北米に強み		欧州・南米・インドに強み		

## 新会社 TDK-EPC株式会社

### 次世代の製品開発をグローバル体制で展開

技術面でのTDKの強みは、素材開発技術と商品化のためのプロセス技術です。長年にわたって培ってきたこれらの技術力は、TDKの大きな財産です。一方、EPCOSは高周波技術・モジュール技術・アプリケーション対応技術等に強みを持っています。両社の技術的強みを、TDK-EPC株式会社は兼ね備えることになるわけですが、これは単に技術の幅が広がったということにとどまらず、技術の掛け合わせによって新しい技術が誕生することを意味しています。つまり「足し算」ではなく「掛け算」の発想です。これにより先進のモジュール及びシステム製品の創出が可能となり、デジタル家電や通信機器などの最終製品の一層の高機能化・小型化・高効率化に貢献することができます。



TDKとEPCOS両社の市場を受け継いで、顧客との絆のさらなる強化を目指すTDK-EPC株式会社は、真の技術力とネットワークを生かして顧客のグローバルなビジネス活動を強力にサポートし、顧客志向のグローバル体制を構築します。



## 事業分野／取り扱い製品

製品ごとに7つの事業部門を置き、TDKブランド製品とEPCOSブランド製品を取り扱います。なお、販売については、電子部品営業グループが当該7事業部門の製品のみならず、従来通り全製品(含むマグネット等)を扱います。

<b>Magnetics</b> マグネティクス	情報家電、通信機器、産業機器、車載機器等に使用されるインダクタ、フェライト、トランスなど  インダクティブデバイス 車載用インダクタ	<b>Sensors</b> センサ	家電製品、自動車、産業・医療機器向けの温度・圧力センサやその他のセンサなど  ギアトウセンサ 圧力センサ
<b>Ceramic Capacitors</b> セラミック コンデンサ	車載用高信頼性タイプ、モバイル通信機器用小型タイプ、電源用高圧タイプなどの積層セラミックコンデンサなど  積層セラミックコンデンサ	<b>Aluminum Electrolytic Capacitors</b> アルミ電解コンデンサ	産業機器、自動車、家電製品向けのアルミ電解コンデンサなど  アルミ電解コンデンサ
<b>Systems Acoustics Waves</b> システムズ アコースティクス ウェイブス	モバイル通信機器・インフラ、マルチメディア、IT機器、自動車等に使用されるSAW・BAWフィルタ、デュプレクサ、フロントエンドモジュールなど  高周波部品 フロントエンドモジュール & デュプレクサ	<b>Film Capacitors</b> フィルムコンデンサ	発電・配電、力率改善を含めた産業用機器や家電製品向けのフィルムコンデンサなど  フィルムコンデンサ
<b>Piezo &amp; Protection Devices</b> ピエゾ& プロテクションデバイス	自動車の燃料噴射システム用アクチュエータや、IT機器、家電製品及び産業機器等に使用される保護部品など  バリスタ 燃料噴射システム用ピエゾアクチュエータ		

**会社概要** 日本で設立されたTDK-EPC株式会社単体の概要です。

(注) 純資産、総資産及び従業員数は、2009年3月31日現在の数値です。

会社名・商号	TDK-EPC株式会社	代表者	代表取締役社長 上釜 健宏
本社	東京都中央区日本橋1-13-1	取締役	クラウス・ツィーグラ- (Klaus Ziegler)
設立年月日	2009年10月1日		荒谷 真一
事業内容	電子部品、モジュール、システムの開発・製造・販売		ゲルハルト・ペガム (Gerhard Pegam)
資本金	2,000百万円	監査役	能美 史朗
純資産	288,585百万円 (単体)	発行株式数	三善 昌昭
総資産	310,491百万円 (単体)	株主	100株
決算期	3月31日		TDK株式会社100%
従業員数	2,280名 (単体)		

(2009年10月1日現在)

\*TDK-EPC株式会社の詳しい会社情報はホームページに掲載されております。

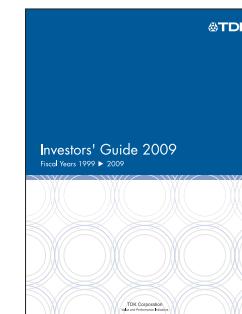
▶ <http://www.tdk.co.jp/tdk-epc/index.htm>

## 広報印刷物紹介

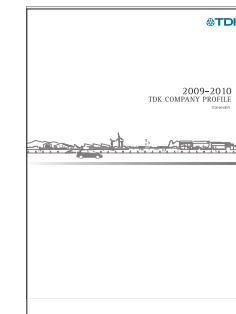
TDKの事業、企業活動等について皆様にご理解いただくために、その内容を詳しく紹介した印刷物を用意しております。



アニュアルレビュー



インベスターズガイド



会社案内



CSRレポート

### ■ アニュアルレビュー

当年度の経営成績や今後の経営戦略を記載した年次報告書です。

### ■ インベスターズガイド

TDKの過去11年間の連結業績、連結損益等の実績値を掲載したデータ集です。

### ■ 会社案内

TDKの製品、技術、研究開発、営業、社会的責任、グローバルネットワーク等、幅広く紹介しています。TDKの全体像をご理解いただくのに最適です。

### ■ CSRレポート

TDKが行うCSR(企業の社会的責任)活動について、その具体的な活動内容や理念等を紹介しています。また、環境活動についても詳しく紹介しています。

上記の印刷物についてはTDKのホームページ上でダウンロードいただけます。また、ご希望の方には印刷物をお送りしておりますので、下記までお申し込みください。

### 【お申し込み先】

〒103-8272 東京都中央区日本橋1-13-1 TDK株式会社 広報部IRグループ

ハガキにて頂くお名前、ご住所などの個人情報は、今回の資料発送にのみ使用し、発送後は速やかにハガキを適切に廃棄致します。なお、資料発送業務は当社と契約を結んだ第三者へ委託していますが、これ以外の第三者が個人情報に不当に接することの無い様、合理的な範囲内で管理致します。この募集は当社のIR活動の一環であり、いかなる有価証券に関する投資勧誘をも目的としたものではありません。本件に関する問い合わせ先は、広報部IRグループ(電話03-5201-7102)です。

IR情報

決算情報を含めた株主・投資家情報を当社ホームページに掲載しております。どうぞご覧ください。

**TDKホームページ株主・投資家情報** <http://www.tdk.co.jp/ir/>



# エコフレンドリーな未来に向けて…TDKの電子部品 次世代クリーンカーを実現する技術革新

ハイブリッドカー(HEV)に続き、電気自動車(EV)やプラグインハイブリッドカー(PHV)も続々と登場し、モータリゼーションはいま世界的な転換期にさしかかっています。バッテリーによるモータ駆動を取り入れた自動車は、まさに走るエレクトロニクス機器。安全・快適なエコドライブを実現するために、電子部品には高い信頼性が求められます。蓄積した素材技術を基盤とするTDKのコアテクノロジーは、自動車分野でもますますその真価を発揮します。

## ちょっと気になるKEYWORD

### ハイブリッドカー(HEV, HV)

エンジンと電気モータを搭載し、双方を効率よく駆動して省エネ走行するのがハイブリッドカー。低速運転ではモータ駆動(あるいはモータがエンジンをアシスト)、高速運転ではエンジン駆動しながら発電機を回してバッテリーを充電します。また、ブレーキをかけたときのエネルギーも回生して、バッテリー充電に利用するため、従来のガソリン車とくらべて燃費は著しく向上します。

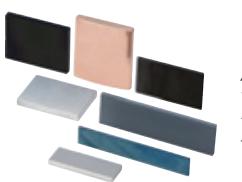
### プラグインハイブリッドカー(PHV)

EV(電気自動車)は排ガスを出さないクリーンカーですが、バッテリーの性能やコストの面から、現在のところ1回の充電で走行できる距離が短いのが難点です。そこで、夜間電力などを用いて家庭のコンセントからバッテリーを充電しておき、近場の通勤、買物、送迎などはEVとして走行、長距離走行はエンジン駆動するタイプの自動車プラグインハイブリッドカー(PHV)です。

### 素材技術

次世代カーの省エネ走行を実現するハイパワー・高特性のTDKマグネット

高級車では100個も使われるモータを小型・軽量化することで燃費の改善に大きく貢献!



**ネオジムマグネット NEORECシリーズ**  
ハイパワーのNEORECは、ハイブリッドカーのモータに採用され、燃費向上に大きく貢献しています。



**フェライトマグネット FBシリーズ**  
パワーウインドウやパワーミラーなど、自動車には多数のDCモータが使われています。世界最高特性を誇るTDKのフェライトマグネットは、DCモータの小型・軽量化をさらに推進します。

### プロセス技術

エンジンルームの高温にも耐える車載用電子部品は、TDKの素材技術とプロセス技術の成果!



**積層セラミックチップコンデンサ**  
コンデンサは自動車の頭脳ともいえるエンジン制御ユニットなどのコントロール回路にも使われています。

### 素材技術・回路技術

先進のフェライト技術・回路設計技術で、ハイブリッドカーの燃費向上に貢献

独自の素材技術・回路技術で車のエレクトロニクス化をサポート!



**HEV用DC-DCコンバータ**  
ハイブリッドカー(HEV)の駆動モータにはメインバッテリーの高電圧の電力が使用されます。この高電圧をカーナビ、カーオーディオといった電装機器用の低電圧に変換するのがDC-DCコンバータの役割。蓄積したフェライト技術・回路設計技術などにより小型・高効率化を達成、ハイブリッドカーの省エネとバッテリー負担の軽減に寄与しています。

## 快適エコドライブをアシストする TDKの電子部品。



**確実な伝送**

**ノイズの抑制**

**信頼性を高める**

今や車は高度なデータネットワークシステム。ノイズを遁減して安全ドライブ!

### EMC(ノイズ)対策技術

トータルなEMC(ノイズ対策)ソリューションが安心・安全な自動車をサポート

車載用コモンモードフィルタ (各種車載LANに搭載されるノイズ対策部品)

車載用クランプフィルタ



車載ネットワークを正常に機能させ、安全なドライブを保障するためのノイズ対策は必要不可欠です。過酷な使用環境にも耐える信頼性・耐久性も実現しています。

### センサ技術

自動車はいわば人を乗せて走るロボット。各種センサの研ぎ澄まされた“五感”が、安全・快適ドライブを推進

安全・快適と省エネに各種センサが貢献!



**ATF油温センサ**  
ATF(自動変速機)のオイル温度を監視する高信頼性の温度センサ。



**NTCサーミスタ**  
カーエアコン、エンジン関連、また外気の気温など様々な温度を検知してスムーズかつ安全な自動車走行を支えます。



**ギアトゥースセンサ/カムセンサ**  
エンジン回転数やカムの回転角などを検知して、エンジンの電子制御の最適化を図るためのセンサ。



**トランスポンダコイル**  
タイヤ空気圧監視、イモビライザ(車両盗難防止用)などの無線システムに使われる小型・高性能アンテナコイル。



**電流センサ**  
ハイブリッドカーのバッテリー電力を無駄なく効率的に制御する“目”に相当する車載用電流センサ。

# 名句の旅&TDK

## 第2回【長野】

名句を生んだ各地の風物を訪ねながら、TDKの工場を紹介するシリーズの第二弾。今回は芭蕉の紀行文『更科紀行』の舞台となった信濃路(長野県)です。



澄み切った初冬の空に映える浅間山の優雅な姿。

ふきと いし あさま の わき  
吹飛ばす石は浅間の野分かな 松尾芭蕉

桂浜(高知県)、石山寺(滋賀県)などとともに、名月の鑑賞地として知られるのが長野県の姨捨山(おば(うば)すてやま)。長野盆地南西に位置する冠着山(かむりきやま)の別称で、山中に老母を捨てたという悲しくも哀れな姨捨伝説とともに、山腹の棚田の一つひとつに映る「田毎(たごと)の月」が、古来、詩画の題材となってきました。芭蕉は『笈(おい)の小文(こぶみ)』の旅を終えたのち、しばらく岐阜に滞在。そこから名古屋の門人である越人とともに、信濃の更科へ足を運びました。「さらしなの里、姨捨山の月見ん事、しきりにすゝむる秋風の心に吹(ふき)さはぎて…」と、『更科紀行』の冒頭にあるように、この旅は姨捨山の観月が目的でした。出発は旧暦8月11日。険しい山中の難路を夜も明けぬうちから日暮れまで歩き続け、15日(中秋)に念願の姨捨山にたどりつき、「佛(おもかけ)や姨(うば)ひとり泣く月の友」という句を詠んでいます。

「吹飛ばす石は浅間の野分かな」は、『更科紀行』末尾の句。千曲川沿いに江戸に向かってへ東進すると、小諸の近辺から圧倒的な山容の浅間山が見えてきます。浅間山は佐久盆地の北にそびえる高さ約2500mの活火山。芭蕉が通りかかったとき、石をも飛ばす強い野分(秋の暴風、台風)が吹き荒れていたようです。山高く、川清く、自然豊かな信濃路…。芭蕉の更科の旅から約200年後の明治期、新鋭詩人・島崎藤村は「…暮れ行けば浅間も見えず 歌哀し佐久の草笛…」と、早春の千曲川を叙情みなぎる五七調で歌い上げました(「千曲川旅情の歌」)。信濃路を歩くと、だれでも溢れんばかりの詩情がかきたてられます。



## 工場探訪 TDK浅間テクノ工場

雄大な浅間山を望むHDDヘッド用ウエハの開発・製造拠点蓄積した薄膜技術は薄膜高周波部品にも応用展開

長野新幹線・佐久平駅、上信越自動車道・佐久ICから車で約10分。雄大な浅間山を望む佐久盆地の静かな林域に、土地面積9万5000㎡、建物延床面積2万3000㎡に及ぶTDKの浅間テクノ工場(旧・千曲川第二テクニカルセンターを改称)があります。ここはパソコン、テレビ録画機、サーバなど、民生・産業機器のデータ記憶装置として多用されているHDD(ハードディスクドライブ)のヘッド用ウエハを開発・製造する世界的な拠点です。隣接する千曲川テクノ工場とともに、記録分野における大容量・高記録密度化に対応した最先端技術の開発を推進。次世代の熱アシストヘッドなど、1T(テラ)ビット/平方インチを超えるHDDの高記録密度化の技術確立も進めています。携帯電話をはじめとする無線機器のさらなる小型・薄型化を実現する薄膜高周波部品も、HDDヘッド用ウエハ製造で培った浅間テクノ工場の薄膜技術の応用展開から生まれました。



浅間テクノ工場(長野県佐久市小田井543)

## ●株式の状況

上場証券取引所	東京(証券コード:6762)、ロンドン
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当基準日	期末:毎年3月31日、中間:毎年9月30日
株主総会基準日	毎年3月31日(そのほか臨時に必要があるときはあらかじめ公告いたします)
公告方法	電子公告(当社のホームページ <a href="http://www.tdk.co.jp/">http://www.tdk.co.jp/</a> に掲載いたします)
1単元の株式数	100株
会社が発行する株式の総数	480,000,000株
発行済株式の総数	129,590,659株

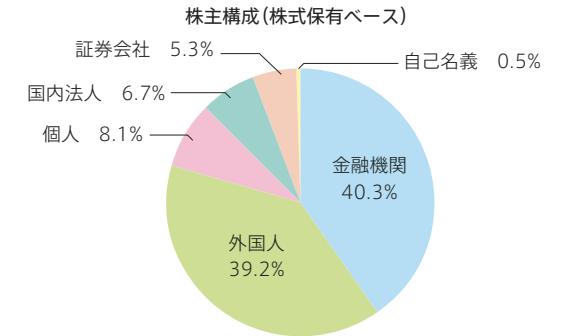
## ●大株主(2009年9月30日現在)

氏名	所有株式数(千株)	出資比率(%)
1. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	13,678	10.60
2. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	13,162	10.20
3. パナソニック株式会社	6,250	4.84
4. ナツクムコ	4,006	3.11
5. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	3,447	2.67
6. JPMorgan証券株式会社	2,799	2.17
7. ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505225	2,334	1.81
8. 資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	2,333	1.81
9. 日本生命保険相互会社	2,140	1.66
10. 東京海上日動火災保険株式会社	2,132	1.65
合計	52,279	40.53

(注記事項) 1. 出資比率は、自己株式(598,536株)を控除して計算しております。  
2. 所有株式数、出資比率とも表示単位未満を四捨五入して表示しております。

## ●株主様の状況(2009年9月30日現在)

株主数:24,675名



## ●取締役、監査役及び執行役員

取締役 \*印は社外取締役

代表取締役	澤部 肇	会長	澤部 肇
代表取締役	上釜 健宏	社長	上釜 健宏
取締役	江南 清司	専務執行役員	江南 清司
取締役	萩原 康弘*	常務執行役員	レイモンド・リョング (Raymond Leung)
取締役	森 健一*	常務執行役員	能美 史朗
取締役	荒谷 真一	常務執行役員	荒谷 真一
取締役	梁瀬 行雄*	常務執行役員	鈴木 武夫

監査役 \*\*印は社外監査役

常勤監査役	三善 昌昭	執行役員	野村 武史
常勤監査役	原 登	執行役員	石垣 高哉
監査役	松本 香**	執行役員	吉原 信也
監査役	大野 亮一**	執行役員	小林 敦夫
監査役	中本 攻**	執行役員	米山 淳二
		執行役員	植村 博之
		執行役員	ロビン・ツェン (Robin Zeng)
		執行役員	逢坂 清治
		執行役員	梶屋 雅隆



# お知らせコーナー



## ① 配当金に関するご案内

### お受け取り方法 ◀◀◀ どんな方法があるの？

配当金をお受け取りになるには、次の4つの方法があります。  
(複数の銘柄をお持ちの場合)

#### 「お振込み」の場合

1. 全銘柄の配当金を各証券口座へお振込 **NEW**
2. 全銘柄の配当金を一括して銀行口座へお振込 **NEW**
3. 個別銘柄毎の配当金を個別指定の預金口座へお振込

#### ワンポイントアドバイス

お振込なら安心・スピーディー！  
詳しくはお取引のある証券会社へ！

#### ゆうちょ銀行等の窓口の場合

4. 個別銘柄毎の配当金を  
「配当金領収証」を持参し窓口にてお受け取り

### 確定申告 ◀◀◀ 何を留意すればよいの？

確定申告には次の書類を添付書類としてご使用ください。

#### 配当金を「お振込み」でお受け取りの株主様

今回お送りした『配当金計算書』

#### ワンポイントアドバイス

受け取ったら大切に保管！  
詳しくは中央三井信託銀行へ！

#### 配当金を「配当金領収証」にてお受け取りの株主様

来年1月中旬以降に当社からお送りする『支払通知書』

### 未払配当金 ◀◀◀ 今からでも間に合うの？

まだ受取られていない過去の配当金は、下記の株主名簿管理人(中央三井信託銀行株式会社)にお問合せください。

## ② 各種手続き ◀◀◀ どこに問い合わせればよいの？

住所変更、単元未満株式の買取・買増、配当金受取方法の指定等は、お取引のある証券会社等にお申込ください。  
但し、特別口座\*をご利用の株主様は下記の口座管理機関(中央三井信託銀行株式会社)にお申込ください。

\*特別口座の株主様へ〔2008年12月末までに株券をほふり(証券保管振替機構)へお預けにならなかった株主様〕

**特別口座のままでは証券市場でご自身の株式の売却は出来ません！**

この場合、まずは証券会社等にご本人様名義で一般口座を開設し、株式を振替えれば売買可能となります。また、単元未満株式をお持ちの場合は同封されている「単元未満株式買取請求」をご利用いただく方法もございます。詳しくは、下記の口座管理機関(中央三井信託銀行株式会社)にお問合せください。

株主名簿管理および口座管理機関	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同ご照会先(郵便物送付先)、電話照会先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話:0120-78-2031(フリーダイヤル)
同取次窓口	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店、日本証券代行株式会社 本店および全国各支店



TDK株式会社

〒103-8272 東京都中央区日本橋一丁目13番1号 <http://www.tdk.co.jp/>